大阪府教育センター附属高等学校
校長　寺田　明彦

# 令和４年度　学校経営計画及び学校評価

## １　めざす学校像

変化の激しい社会の中で、豊かな感性、確かな学力、あくなき探究心をもって生き抜く子どもたちを育てる学校
　１　学びに向かう意欲を高め、自己実現に導く教育活動を展開する。
　２　確かな信頼関係を基盤に、豊かな人間力を育む教育活動を展開する。
　３　先進的・先導的な教育実践に、教育センターと一体となって取組みを進める。

## ２　中期的目標

１　豊かでたくましい人間性のはぐくみ
（１）多様性を認める人間関係をはぐくむ活動の充実を図る。
　　ア　誰もが個性や趣向を肯定され、安心して学校生活が送れる居場所としての集団づくりを進める。
　　イ　人権教育を基盤とした生徒指導と細やかな生徒観察により、課題の早期発見に努める。
　　ウ　情報リテラシーの育成を図る。
※探究ナビや人権ＨＲのさらなる充実を図ることで、学校教育自己診断（生徒）で「クラスには自分の居場所がある」の肯定的回答率（R01：81.6%、R02：84.1%、R03：85.5%）を令和６年度も 80%以上を維持する。
（２）安全で安心な学びの場とするための環境整備を行う。
　　ア　すべての教職員が危機意識を持ち、危険予知に関する知識と緊急事態への対応能力を向上させる。
　　イ　生徒が気軽に相談できる環境を整備する。
　　ウ　いじめを見逃さない教職員集団を作る。
　　エ　中学校等との連携を進め、教育相談体制のさらなる充実を図る。
※情報共有を密にするなど、きめ細かな相談支援体制をさらに充実させることで、学校教育自己診断（生徒）で「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定的回答を（R01：60.8%、R02：67.5%、R03：74.6%）を前年度比で増加させ、令和６年度には 75%以上にする。
※保護者のニーズを踏まえた情報発信を行い、学校教育自己診断（保護者）で「学校は、生徒をきめ細かく、多面的にサポートしている」の肯定的回答を（R01：65.6%、R02：67.9%、R03：70.4%）を前年度比で増加させ、令和６年度には 75%以上をめざす。

２　確かな学力の育成と授業改善（教育力向上と進路実現）
（１）教育センターと一体となった教育実践の研究
　　ア　電子黒板と１人１台端末を活用した授業についての研究・実践を重ね、成果を発信する。
　　イ　観点別学習状況評価についての研究・実践を重ね、成果を発信する。
　　ウ　授業研究やカリキュラムマネジメントにおけるアドバイザーとして教育センターのリソースを活用する。
※上記アイウに関する校内研修において、教育センターの指導主事から指導助言を得るなど協働で取り組み、研究を重ねる。
※授業公開週間をさらに充実させ、公開研究授業及び研究討議を複数回実施し、その成果を発信する。
（２）基礎学力の定着をめざした授業研究・改善への取組みとその成果の発信
　　ア　知識・技能の活用を図り、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を育む。
　　イ　学びを活かそうとする意欲の向上を図る。
　　ウ　読解力の育成・充実を図る。
※学校教育自己診断（生徒）で「授業はわかりやすく、教え方に工夫をしてくれる先生が多い」（R01：53.9%、R02：63.5%、R03：71.4%）を前年度比で増加させ、令和６年度には 73%以上をめざす。
（３）あくなき探究心の育成
　　ア 教科横断型である探究ナビを本校教育活動の軸と位置付け、活用型の授業に取り組む。そして、探究ナビ発表大会を実施し、探究活動の充実とその成果を発信する。
　　イ 全教科において、「社会人基礎力」の育成を意識した授業実践を行う。
※学校教育自己診断（生徒）で「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」（R01：53.9%、R02：63.5%、R03：81.6%）を前年度比で増加させ、令和６年度には 82%以上にする。
　　ウ　進路指導を充実させる中で、自ら学ぶ生徒を育成する。
※学校教育自己診断（生徒）で「将来の進路や生き方について考える機会がある」（R01：79.7%、R02：80.8%、R03：89.0%）を、令和６年度も 80%以上を維持する。
※３年間を見通した進路指導を着実に実行することにより、４年制大学・短期大学の進学者率上げ、令和６年度には併せて 150 名以上とする。
（R01：135 名、R02：132 名、R03：150 名
※令和４年度、「探究図書館を創ろう！」が学校経営推進費支援校に決定。評価指標として、図書館の来館者数を 400 名以上[R3 305]、利用書籍の統計変化を探るとともに、学校教育自己診断（生徒）で、「図書館を利用して探究活動を進めることができた」（新設）肯定率 80%以上。大阪府教育センターフォーラム等での成果発表を行う。

３　「チーム教セン」による新しい課題への挑戦（支え合い高め合う組織の実現）
（１）広報活動の充実と地域に開かれた学校をめざす。
　　ア　近隣の中学校を訪問（約 50 校）するとともに、ホームページ等を活用した広報活動を充実させる。
　　イ　近隣中学校との交流を推進し、中高教員相互の授業力の向上に繋げる。
（２）生徒の自主的な活動を充実させる
　　ア　生徒会を中心に、生徒が主体的に行う体育大会、文化祭等の行事を充実させる。

大阪府教育センター附属高等学校

（３）校務の効率化と働き方改革の推進
ア　全校一斉退庁日及びノークラブデーの活用をさらに促進し、勤務時間管理及び健康管理を徹底させる。
イ　超過勤務時間が月 80 時間を超える教職員を年間で、(45 )名以下をめざす。（R01 53 名、R02 51 名、R03 33 名）
ウ　タブレットの活用によりペーパーレス化を推進することで職員会議等の時間短縮をめざす。

【
学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析［令和　　年　　月実施分］ | 学校運営協議会からの意見 |
|---|---|
| | |

３　本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標［Ｒ３年度値］ | 自己評価 |
|---|---|---|---|---|
| １　豊かでたくましい人間性のはぐくみ | （１）多様性を認める人間関係のはぐくみ<br>ア）居場所としての集団づくり<br><br>イ）課題の早期発見<br><br>ウ）情報リテラシーの育成<br><br>（２）安全で安心な学校生活のための環境整備<br>ア）危険予知及び緊急事態への対応能力の向上<br><br>イ）相談できる環境の整備<br><br>ウ）いじめの未然防止・早期発見・早期対応のための教職員集団<br><br>エ）教育相談体制及びガイダンス機能の充実 | （１）多様性を認める人間関係のはぐくみ<br>ア）より良い人間関係の構築をめざし、クラスづくりの導入となる活動を全教員が指導できるようにするための校内研修を年度当初に実施する。また、授業研究委員会を中心に授業改善を行い、授業等において、積極的に発表したり、意見が言いやすい雰囲気づくりをめざす。<br>イ）支援の必要な生徒の情報を、担任会や教育支援委員会を中心に共有し、課題が深刻化しないように努める。<br>ウ）あらゆる教育活動を通して、適切な情報の収集、発信、活用について啓発を行い、情報リテラシーを高める。<br>（２）安全で安心な学校生活のための環境整備<br>ア）懸念される現実的な災害を想定した訓練を実施するとともに、感染症拡大による臨時休校等の緊急事態に備え、連絡体制を整える。<br>イ）教科の準備室や職員室付近に机や椅子を設置し、気軽に質問や相談ができる場を拡充する。<br>ウ）アンケート等を効果的に活用し、課題把握に努め、教育支援委員会等により教職員間で情報を共有し、深刻な問題に発展しないよう未然防止に努める。<br>エ）相談しやすい体制づくりを進めるとともに、生徒への広報を適宜行。また、相談体制を充実させるための教員研修を実施する。 | （１）<br>ア）①学校教育自己診断（生徒）で「クラスには自分の居場所がある」の肯定率 80%以上を維持する。［85.6％］<br>②学校教育自己診断（生徒）で「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定率が前年度を上回る。［81.6%］<br>イ）学校教育自己診断（生徒）で「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率 75%以上［74.6%］<br>ウ）人権教育委員会からＳＮＳ関連に係る注意喚起等の啓発活動を定期的に行うことで、ＳＮＳ等、ネット上での課題事象の減少に努める。併せて、課題事象発生時の適切な対応についての校内研修を複数回行う。<br>ア）学校教育自己診断（生徒）で「防災や防犯について、緊急時の行動を知らされている」の肯定率 65%以上［63.6%］<br>イ）学校教育自己診断（生徒）で「自分は大切にされていると感じることがある」の肯定率 73％以上［72.9%］<br>ウ）学校教育自己診断（教職員）で「いじめ（疑いを含む）が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている」の肯定率 90%以上を維持する。［95.5%］<br>エ）①学校教育自己診断（保護者）で「学校は、生徒をきめ細かく、多面的にサポートしている」の肯定率 71%以上［70.4%］<br>②学校教育自己診断（生徒）で「いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定率 80%以上を維持する。［80.3%］ | |

大阪府教育センター附属高等学校

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 2 確かな学力の育成と授業改善・教育力向上と進路実現 | （１）教育センターと一体となった教育実践の研究<br>ア）電子黒板と１人１台端末を活用した授業についての研究・実践<br>イ）観点別学習状況評価についてのさらなる研究・実践<br>ウ）教育センターのリソースの活用<br>（２）基礎学力の定着をめざした授業研究・改善への取組み<br>ア）知識・技能の活用を図り、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成<br>イ）学びを活かそうとする意欲の向上<br>ウ）読解力の育成・充実<br>（３）あくなき探究心の育成<br>ア）探究活動の充実と再構築<br>イ）「社会人基礎力」の育成<br>ウ）自ら学ぶ生徒の育成と希望進路の実現 | （１）教育センターのリソースを活用しながら一体となった授業研究や授業実践を行い、その成果を校内で共有するとともに発信する。<br>ア）電子黒板と１人１台端末の環境の下での授業について、授業研究委員会を中心に実践研究を進める。<br>イ）観点別学習状況評価の本格実施にあたり、本校の状況に合わせた評価指針を充実させる。<br>ウ）教育センター大ホールを授業の成果発表の機会として活用したり、授業に関するアドバイザーとして指導主事を活用する。<br>（２）基礎学力の定着をめざした授業研究・改善への取組み<br>ア）授業研究委員会、教科会議において、学力生活実態調査や実力テスト等の結果を分析し、学んだ知識・技能の活用を想定した授業づくりを進める。<br>イ）各教科で付けたい力を生徒に伝え、各教科での学びを活用できるような課題を取り入れ、意欲を向上させる。<br>ウ）すべての教科で、読解力の育成をめざした取組みを実施する。読書等、文章を読むことを啓発するとともに、引き続き図書室の整備を進める。<br>（３）あくなき探究心の育成<br>ア）本校教育活動の軸と位置付けている探究ナビをはじめとする探究活動を充実させ、その成果を発信するとともに、３年間を見通した指導計画をさらに充実させる。<br>イ）全教科で「社会人基礎力」（実社会で必要かつ役立つ力）の育成を意識した内容を授業に取り入れ、成果を検証する。<br>ウ）自ら学ぶ生徒を育成する。<br>授業以外での学習習慣をつけさせるとともに、学ぶ意欲を喚起し、生徒の進路実現を図る。<br>また、一人ひとりの希望進路を実現するため、将来を見据えた科目選択を含む教育課程を編成するとともに、系統的な進路講習等の個別の支援を充実させる。 | （１）<br>ア）学校教育自己診断（生徒）で「コンピュータやプロジェクタなどを使った授業がある」の肯定率 90%以上を維持する。[90.2%]<br>イ）各教科における課題を洗い出し、情報共有を行い、課題解決に向けての校内研修を複数回実施する。<br>ウ）月１回の定例の幹部会議の開催、大ホール借用の行事に加え、合同で校内研修を２回行い、指導主事からのアドバイスや情報提供を受ける。<br>（２）<br>ア）①生徒への授業アンケートで「授業内容に興味・関心を持つことができたと感じている。の全平均が、前年比を上回る。[3.13]<br>②授業アンケートで「知識や技能が身に付いたと感じる」の全平均が、前年比を維持する。[3.15]<br>イ）学校教育自己診断（生徒）で「授業はわかりやすく、教え方に工夫をしてくれる先生が多い」の肯定率 72%以上[71.4%]、「頑張ろうと意欲をかき立てられる授業がある」の肯定率 64%以上[63.6%]<br>ウ）図書室の利用者数（授業での利用を除く）を前年度より増加させる。[305 人]<br>（３）<br>ア）学校教育自己診断（保護者）で「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」の肯定率 80%以上を維持する[85.9%]<br>イ）学校教育自己診断（生徒）で「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率 80%以上を維持する[89.0%]<br>ウ）①英語検定、数学検定の受験者数を前年度を上回る。<br>[英検 39 名、数検６名受験]<br>②1 年からの系統的な進路ＨＲを実施（年間３回以上）及び系統的な進学講習の開催（長期休業期間合計４回）することで、各進学先の合格者数を前年比で上回る。<br>・４年制大学[126]名<br>・短期大学[24]名<br>・専門学校[50]名<br>・就職内定者[16]名 | |

大阪府教育センター附属高等学校

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ３<br>チーム教センによる新しい課題への挑戦 | ※探究図書館の充実<br><br>（１）広報活動の充実<br><br>ア）地域に開かれた学校<br><br>イ）近隣中学校との交流<br><br>（２）生徒の自主活動の充実<br>ア）生徒会活動の活性化<br><br>イ）校内美化運動の充実<br><br>（３）校務の効率化と働き方改革の推進<br><br>ア）教職員の意識改革<br><br>イ）校務の効率化 | ※生徒自らが個別最適な学びや協働的な学びをデザインする学習活動を展開する。主体的な探究活動を支援するような文献や論文に溢れ、また共創的な学習活動を展開できるディベートルームがあり、各授業での活用が可能な知識創造の場となる学校図書を作ることで、生徒の学びを深め、主体的に学びに向かえていると自己を肯定できる生徒の割合を増加させる。<br><br>（１）広報活動の充実<br><br>ア）広報委員活動を活性化させ、学校説明会、体験入学会、ホームページ等を活用した広報活動の充実を図る。<br><br>イ）近隣中学校を全教員で分担し訪問、広報するとともに、本校の授業公開週間の開催を近隣中学校へ広報することで交流を図る。<br><br>（２）生徒の自主活動の充実<br>ア）生徒会を中心に、生徒が主体的に行う体育大会、文化祭等の行事や部活動を充実させる。<br><br>イ）保健委員を中心に学年団と連携し、定期清掃、大掃除等を徹底し美化運動を充実させる。<br><br>（３）「府立学校における働き方改革にかかる取り組みについて」に沿って業務の見直し・効率化を図る。<br><br>ア）全校一斉退庁日及びノークラブデーの周知徹底を図るとともに、管理職による指導、助言を適宜行う。<br>イ）①部活動における複数顧問等による役割分担。<br>②終了時間を定めた会議の運営により、校務の効率化を図る。<br>③職員会議等の会議時間を短縮するために、タブレットを使用することで、書類の電子化（ペーパーレス）を推進する | ※図書館の来館者数を 400 名以上[R3 305]、利用書籍の統計変化を探るとともに、学校教育自己診断（生徒）で、「図書館を利用して探究活動を進めることができた」（新設）肯定率 80%以上。大阪府教育センターフォーラム等での成果発表を行う。<br><br>（１）<br><br>ア）近隣中学校 50 校を全教員で分担し訪問することで、学校説明会への参加人数を増やす。[第１回 95 名、第２回 340 名、第３回 177 名申込がありましたが中止][未実施]<br>イ）学校教育自己診断（教職員）で「近隣の学校などとの交流の機会を設けたり、地元とのつながりを大切にした取り組みを進めている」の肯定率 50%以上をめざす。[40.5%]<br><br>（２）<br>ア）学校教育自己診断（生徒）で「学校行事は充実して楽しい」の肯定率 80%以上[77.3%]、「この学校には、魅力ある部活動がある」の肯定率 72%以上[71.0%]<br>イ）ＨＲ教室等、学習環境を美しく保つことをめざし、定期的にチェックする体制を充実させる。毎週１回保健委員が各教室の清掃状態を点検し、評価指標に基づいて、点数化することで意識を高める。年度末には、学年別に優秀クラスを表彰。<br>（３）<br><br>ア）超過勤務時間が月 80 時間を超える教職員を年間で 45 名以下とする。<br><br>イ）ストレスチェックにおける健康指数を前年度より下回る。<br>[R1:146、R2:129、R3:106] | |